

鶴見川水系河川整備計画の構成

1章

概要

2章

現状と課題

治水	古くから洪水氾濫をくりかえしており、洪水の発生しやすい地形特性を有している
	急激な市街化により、流域の保水・遊水機能が減少。雨水貯留浸透施設の設置が進められているが、未だ不十分
	異常気象等による局所的な集中豪雨が頻発しており、都市化の進んだ流域の被害ポテンシャルが増大
利水	本川の平常時の流量は、下水処理水に依存し比較的豊か。一方、支川での平常時の流量は、減少傾向にある
	高度経済成長により水質が悪化するが、下水道の整備等により現在の水質は改善傾向にある
環境	急速な市街化の進展の中においても河川空間には貴重な動植物が生息・生育・繁殖しており、保全・回復が必要
	散策やサイクリング等に利用されているほか、年間を通して各種イベント等が開催されている
	一部の高水敷や堤防等での不法行為・不法占用などが、河川空間の公共性及び秩序ある利用に影響を及ぼしている
環境保全活動、クリーンアップ活動、環境学習等を積極的に行う市民活動・学校活動が活発である	

3章

目標

◎計画対象区間：鶴見川水系の一級河川で、国土交通省・東京都・神奈川県・横浜市の管理する区間
◎計画対象期間：概ね30年

理念

水循環系の健全化の視点から自然と共存する持続可能な流域社会の再生

国土交通省管理区間

昭和33年9月狩野川台風相当の洪水流量を安全に流下させる

東京都・神奈川県・横浜市管理区間

概ね10年に1回程度発生する降雨により発生する洪水流量を安全に流下させる

堤防・護岸の耐震性能を確保するとともに、災害時の救助活動の場を確保する

治水

動植物の生息・生育・繁殖環境、景観、河川水質に必要な流量を確保する

子どもが川で水遊びでき、多様な生物が生息・生育・繁殖できるような水質を目指す

震災・火災時に、消火・非常用水として河川水が利用できるような場を確保していく

目標

- 洪水や高潮の危険から流域を守る
- 豊かで清らかな水環境を保全・創出する
- 良好な河川環境及び生物多様性を保全・創出する
- 震災・火災時の危険から流域を守る
- 水辺のふれあい・交流を育む基盤をつくる

利水

水と緑のネットワーク化を図る

河川が本来有している動植物の良好な生息・生育・繁殖環境に配慮した多自然川づくりを進める

沿川のまちづくりと一体となった良好な河川景観の形成に努める

市民が身近に自然や水辺とふれあう場をつくる

河川敷や堤防などをスポーツ・レクリエーションに活用できるように整備する

治水

河道断面の確保対策

築堤

堤防の浸透対策

深掘れ対策

河川調整池の整備

遊水地の整備及び改良

防災対策

利水

平常時の支川の流量回復対策

災害時・渇水時における河川水の利用

水質改善対策

環境

良好な河川環境及び生物多様性の保全・創出

人と川とのふれあいの場の維持機能

秩序ある利用形態の確保

河川美化体制の確立

河川環境のモニタリングの実施

市民等との協働システムの拡充

治水

平常時

河川管理施設の機能維持

河川管理の高度化・効率化

水防団との連携の強化

防災意識の向上

広域防災機能の充実

洪水時

洪水予報の迅速な発令

洪水被害の未然防止及び軽減を図る支援体制の充実

河川巡視による異常の早期発見

地震時

点検要領等に基づく速やかな点検の実施

環境

良好な河川環境及び生物多様性の維持

人と川とのふれあいの場の維持機能

秩序ある利用形態の確保

河川美化体制の確立

河川環境のモニタリングの実施

市民等との協働システムの拡充

4章

目標達成に向けた取り組み

河川の整備に関する事項

河川の維持に関する事項

自然環境の保全・回復と秩序ある利用の促進を図るため、ゾーンの配置を行い、ゾーンの特性に応じて適正に整備及び管理を行う

治水	<ul style="list-style-type: none"> 河道断面の確保対策 築堤 堤防の浸透対策 深掘れ対策 河川調整池の整備 遊水地の整備及び改良 防災対策 	<p>平常時</p> <p>河川管理施設の機能維持</p> <p>河川管理の高度化・効率化</p> <p>水防団との連携の強化</p> <p>防災意識の向上</p> <p>広域防災機能の充実</p> <p>洪水時</p> <p>洪水予報の迅速な発令</p> <p>洪水被害の未然防止及び軽減を図る支援体制の充実</p> <p>河川巡視による異常の早期発見</p> <p>地震時</p> <p>点検要領等に基づく速やかな点検の実施</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 平常時の支川の流量回復対策 災害時・渇水時における河川水の利用 水質改善対策 	<ul style="list-style-type: none"> 適正な流量を確保するための定期的な水量・水質調査の実施 雨水浸透機能の維持、緑地の保全などによる水量・水質の保全 水質事故に対する迅速な対処、被害の拡大防止
	<ul style="list-style-type: none"> 良好な河川環境及び生物多様性の保全・創出 水と緑のネットワーク形成 河川調節池のビオトープ化 水辺の広場・親水施設等ふれあい拠点の整備 旧河川を活かした川づくり 生き物にやさしい川づくり 魚の遡上に配慮した川づくり 高水敷の自然保全 景観に配慮した管理用通路の整備 良好な河畔林の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 良好な河川環境及び生物多様性の維持 人と川とのふれあいの場の維持機能 秩序ある利用形態の確保 河川美化体制の確立 河川環境のモニタリングの実施 市民等との協働システムの拡充

●流域の概要

●河川の概要

●鶴見川水マスタープラン